

「だから、イスラエルの家はみな、はっきりと知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したこのイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」

人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロと他の使徒たちに、「兄弟たち、私たちは何をすべきでしょうか」と言った。そこで、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、聖霊の賜物を受けるでしょう。」(使徒2：36～38)

五旬祭、ギリシア語でペンテコステの日、弟子たちが集まっていると、突然、激しい風が吹く音が家中に響き渡り、また、炎のような舌が一人一人の上に留まった。主イエスが話しておられた神からの聖霊が降ったのである。すると、一同は聖霊に満たされ、聖霊が語らせるままに、他国の言葉で話し出した。大きな風の音に何かと大勢の人々が集まって来たが、故郷の言葉で語っているのを聞いて、あっけにと取られた。なかには弟子たちの話を理解できず、「あの人たちは新しい酒に酔っているのだ」という人もいたが、群衆は弟子たちの語るのを自国の言葉として聞いて、その内容を受け止め、深く感動した。

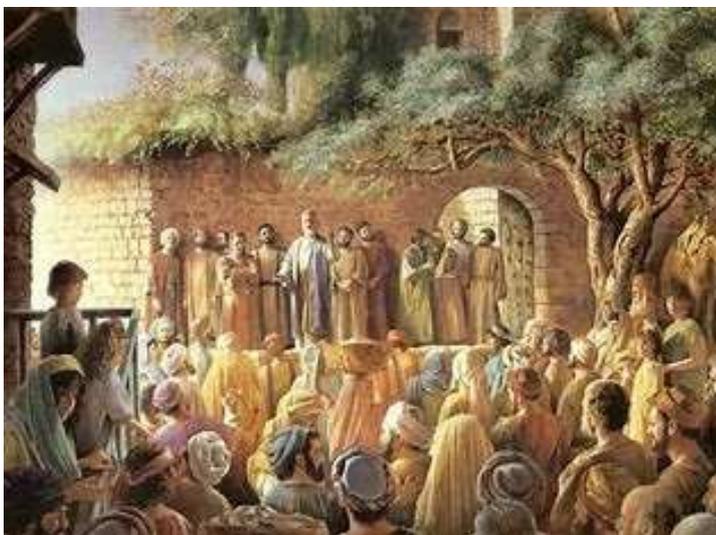
弟子たちが聖霊の導きのままに語った説教を、弟子たちを代表してペトロの説教として、著者ルカは丁寧に書いている。12使徒と共に立ち上がったペトロは声を張り上げ、「ユダヤの方々、またエルサレムに住むすべての人たち、知っていただきたいことがあります。私の言葉に耳を傾けてください」と訴えている。そしてまず、今は朝の9時であるから、酒に酔っているのではなく、預言者ヨエルを通して言われたことが成就したのでであると語り始めている。ヨエルが、神は終わりの日に、全ての人に霊を注ぐ、その時、「あなたの息子や娘は預言し、若者は幻を見、老人は夢を見る」と預言したように、今、我々の上に聖霊が注がれた。そして、ヨエルの「主の大いなる恐るべき日が来る前に」という言葉を、ペトロは「主の大いなる輝かしい日が来る前に」と言い変え、イエスによって「主の名を呼び求める者は皆、救われる」とキリストの到来の出来事へと話を進めている。

ペトロは再度「これから話すことを聞いてください」と念を押して、イエスのことへと話を進めている。ナザレのイエスこそ、神から遣わされた方で、この方を通して、奇跡と不思議な業をあなたがたに示された。ガリラヤ時代の力あるイエスの働きを語っている。このイエスは、神が定められた計画により、あなたがたに引き渡され、律法を知らないローマの総督ピラトによって十字架で殺された。しかし、神はイエスを死の苦しみから解放し、復活させた。イエスが死に支配されたままでおられることはあり得なかったからである。ダビデはイエスについて、詩編16編10節～11節で、「あなたは私の魂を陰府に捨て置かず / あなたに忠実な者に滅びの穴を見せず / 命の道を私に示されます。御前には満ち溢れる喜びが / 右の手には麗しさが永遠にありますように」と語っている。ダビデは死んで葬られ、墓が今日まであることは知られている。ダビデは預言者だったので、彼の子孫から生まれる一人を王座に着かせると、神が誓ってくださったことを知っていた。だから、イエスはキリストとして、「彼は陰府に捨て置かれず / その肉体は朽ちなかった」と語った。ダビデの預言通り、神はイエスを復活させ、命の道を示された。私たちは皆、その復活の証人である。復活したイエスは神の右に上げられた。そして、約束された聖霊を神は注いでくださった。あなたがたは、今それを見聞きしている。ダビデが天に昇った訳ではない。

彼は自身について、「主は、私の主に告げられた。『私の右に座れ / 私があなたの敵を / あなたの足台とするときまで』』と語っている。ダビデが主と呼ぶキリストは神の右に座して、敵を支配される方である。ペトロは、ナザレのイエスは十字架で殺されたが、復活され、天に挙げられ、神の右に座しておられると力説し、聖霊が与えられた今、神が人間を救おうとして遣わされた主イエスの出来事の全てを知らされたと告げている。

そして、「だから、イスラエルの家はみな、はっきりと知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したこのイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです」と結んだ。この言葉が、ペトロの説教の核心である。ペトロの説教は、イエスの力ある働き、十字架の死、死からの復活、昇天、神の右への高擧に力点が置かれている。これが、初代教会のケリュグマ（使信）である。

これを聞いた人々は大いに心を打たれた。心を打たれたのは、自分たちが殺したイエスが主、メシアであることを聖霊によって、ペトロの説教を通して受け止めたからである。人々はペトロと他の使徒たちに、「兄弟たち、私たちは何をすべきでしょうか」と問うた。人々の問いに対し、ペトロは、「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、聖霊の賜物を受けるでしょう」と答えた。ここでは、4つのことが言われている。①「悔い改めなさい。」悔い改めとは、心の向きを変えることである。それは、主イエスにおいて現わされた「神の偉大な業」を信じることである。②「イエス・キリストの名によって、洗礼を受け」る。古い自分に死んで、キリストの復活の命に新生することである。③「罪を赦していただきなさい。」キリストの復活の命に新生した者は罪の赦しをいただく。一人一人の生が神によって「よし」と祝福、是認されている。④「聖霊の賜物を受ける。」聖霊は、ナザレのイエスをキリストと信じるようにと働くが、同時に、色々な霊の賜物を授ける。これらの4つは、主イエスにあって、確かな救いに与る圧倒的な恩寵である。そして、この救いはあなたがたにも、子どもたちにも、遠くにいる全ての人にも、神が招いてくださる者には、誰にでも与えられている。ペトロは他の言葉でも証しし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と言って、励ました。ペトロの説教における旧約聖書の引用は、今日の聖書学から見ると、少なからず無理がある。しかし、当時は、このように自由大胆に読んで、用いていたのである。この日、ペトロの説教を聞いて、洗礼を受け、仲間になった人が3千人ほどもいた。彼らは、



使徒たちの教えを守り、互いの交わりを深め、パンを裂いて主イエスの臨在を確認する愛餐をし、熱心に祈りを捧げる信仰者たちであった。聖霊降臨日に、主イエスをキリストと信じ、言葉と心の通じる信仰と愛に燃える共同体が生まれた。原始エルサレム教会の誕生である。最初に生まれたこの教会から、神の救済の歴史が国境を越え、言葉の違いを超えて、聖霊の働きによって世界に向けて広がっていくことになるのである。